

日米友好の桜の歴史と桜誕生の地・興津



—国花・桜—

桜は日本の国花の一つとされ、春を告げる花として万葉の時代から人々に愛されてきました。代表的な桜である染井吉野は、葉が出る前の枯れ木の状態から開花した時の爛漫と咲き誇る豪華さが有名です。桜は北半球の主に東アジアに見られますが、特に日本で愛され、花見の風習とともに来日する外国人に知られた存在でした。

—アメリカで桜植樹を勧めた人々—

今から約100年前のアメリカで、この美しい桜に関心を持ちアメリカ本土に植えたいと考えている人達がありました。

チャールス・L・マーラット博士は昆虫学者で、アメリカ合衆国農務省の昆虫局長です。桜の木を自分の庭に植えていました。1904年、マーラット博士の庭で観桜会を開き、フェアチャイルド博士とシドモア女史は桜の美しさみとれました。



デイビット・フェアチャイルド博士は、アメリカ農務省植物探検家でした。来日して、東京荒川堤の桜に感動し、「このような美しい花をアメリカへ輸入出来ないだろうか。」と考え、1906年(明治39年)、メリーランド州の自分の庭園に75本の日本の桜と25本の枝垂れ桜を植えて育てられるか試み、見事に花を咲かせました。

1907年(明治40年)、桜の美しさに感動したフェアチャイルド夫妻はワシントン市の街路樹に桜を植樹することを目指す活動を始めました。またアメリカのみどりの日を祝うため、ワシントンの全学校に桜を寄贈しました。そして、講演会で大通りを桜公園にしようと呼びかけました。

(写真はデイビット・フェアチャイルド博士、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS のHP より)



エリザ・シドモア 女史は、世界を旅した有名な紀行作家で、特に桜が好きなアメリカ人でした。28歳(明治17年(1884年))のとき、日本の領事館に兄が勤務していた縁で初来日。1891年(明治24年)には「日本での人力車旅情」を出版し、日本人や桜の名所の紹介をしました。また、1885年(明治25年)から24年間にわたり、歴代の米軍官長にポトマック川河畔への桜植樹を提案し続け、

1909年(明治42年)に、桜の木を買う募金活動を行いました。(写真はエリザ・シドモア女史、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS の HP より)

1909年(明治42年)の春、フェアチャイルド博士の庭園の観桜会にシドモア女史、マーラット博士、高峰博士、水野総領事らが集まり、桜の美しさに魅了され、桜をアメリカに植樹したいという思いを新たにしていました。

1909年4月5日、シドモア女史はタフト大統領夫人に手紙を送りました。タフト大統領と夫人は、陸軍長官時代の1904年(明治37年)に来日し、桜の美しさを知っており、その2日後にタフト大統領夫人から「提案を採用することにしました。」との返事をもらいました。当時のワシントンは、ようやく都市計画案が完成したばかりで、ポトマック河畔はまだ埋立地であり、そこを大公園にすることが課題でした。環境美化事業の頂点にいたのが大統領夫人でした。



ニューヨークに住む世界的な科学者で、日本人倶楽部会長である**高峰讓吉博士**(消化薬の「タカジャスターゼ」やホルモンの「アドレナリン」を發明)も「ニューヨークに桜の並木をつくろう。」と市の公園委員会に呼びかけていました。(写真は高峰讓吉博士、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS の HP より)

シドモア女史に返事が届いた翌日の4月8日、桜の植樹計画を聞いたニューヨーク駐在の**水野総領事**と高峰博士は、東京市による2000本の寄贈の提案をアメリカ側と日本側に伝えました。

1909年(明治42年)6月に水野総領事は当時の **外務大臣小村寿太郎**に書簡を送り、シドモア女史の手紙を添えて日米親善のために東京市が贈り主となることを促しました。



(写真は尾崎行雄夫妻、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS の HP より)

—日本の桜苗木2000本は焼却処分に—

1909年(明治42年)7月16日、外務省から桜寄贈を促す申し入れを東京市が受けました。

尾崎東京市長は、日本から桜を贈ることは、日露戦争の終結のため1905年(明治38年)のポーツマス条約の仲介をしてくれた米国への謝意を表し、日米親善の記念になると考えました。

まず1909年(明治42年)8月25日に東京市参事会で大統領日本訪問に対する返礼と大統領就任の祝賀の意もこめて桜の寄贈を決定。東京興農園より購入した苗木 2000 本(染井吉野600本、都200本、南殿200本、紅普賢200本、朝日牡丹200本、大提灯200本、御車返100本、長州緋桜100本、曙100本、紫100本で200個に大梱包され、総重量50トン)が日本郵船の「加賀丸」に積み込まれ11月24日に横浜を出航しました。アメリカではタフト大統領夫妻が東京市の申し出を快く受け入れ桜の到着を待ちました。

加賀丸は12月10日にシアトルに到着。特別仕立ての冷蔵貨車で大陸を横断しワシントンに輸送されました。翌年1月6日にワシントンに着いた桜苗木に思いがけないことが起こりました。農務省のフェアチャイルド博士とマーラット昆虫局長ら検査団が届いた苗木を調べると、貝殻虫が無数についており、根にはネマトーダもついていました。当時はこれほどの大量の木を殺菌消毒する方法がなく、病害虫が付いているものをアメリカに持ち込むことは危険と判断され、残念ながら、1月19日、全ての苗を焼却処分になることになりました。原因は、桜の木が5mと大きかったこと、根土を付けて送ったこと、送付前に十分な病虫害検査を受けていなかったことなどでした。

このニュースに、アメリカ大統領夫妻をはじめ、桜を心待ちにしていたアメリカ人は非常に落胆しました。(写真は苗木の検査風景と苗木が焼却される風景、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS の HP より)



—ふたたび桜の苗木を米国へ送る 興津で桜苗木が誕生—

送られた苗木がすべて焼却処分された事を知った尾崎東京市長は、約束を果たすために二度目の桜の苗木を贈ることを考え、再び1910年(明治43年)4月12日、東京市参事会において桜寄贈の議決をしました。苗木づくりについては農商務省農事試験場に5月18日に正式に委嘱し、6月24日に農商務省が快諾しました。

東京市は前回の失敗を踏まえて、慎重な準備を進めました。まず1910年(明治43年)3月、農商務省農事試験場長の古在由直農学博士(足尾銅山鉍毒事件の検証で有名)に害虫の駆除や苗木づくりの方法について調査依頼をしました。



古在博士の報告をうけ桜の苗木づくりがはじまりました。旧清水市興津にある農商務省農事試験場園芸部(現在は独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点)の恩田鐵彌部長(東京帝大農科卒)と桑名伊之吉技師(スタンフォード大卒、アメリカで最新の昆虫病理学をマスター)、熊谷八十三技師(東京帝大農科卒、後に元老西園寺公望公の執事)、堀技師が苗木づくりにあたりました。(写真は恩田鐵彌氏、興津100周年記念CDアルバムより)

桜は接ぎ木で苗木を増やすことにしました。山桜の木の枝を切り取って土に挿し木して根を出させ、枝から葉や芽が出たものを台木とします。そこにはほしい種類の桜の木の枝を切り取って穂木とし、それを台木に接ぐ方法です。

桜の権威、三好學博士の助言により、穂木は東京の荒川堤の桜並木(荒川堤の桜は南足立郡沼田村の村長清水謙吾が提案し1886年(明治19年)に3,000本を植栽。船津静作が「五色桜」を守った第一人者。現在の足立区江北は昭和初期まで「荒川の五色桜」と言われ、3,225本78品種の里桜が植えられていた桜の名所でした。)から、台木は、兵庫県の東野村(旧兵庫県川辺郡稲野村之内新田中野村字東野、現在は伊丹市)産の山桜を使用し、興津の農事試験場では、この台木に穂木を接ぎ木して育てることになりました。

アメリカへの発送予定本数は、^{そめいよしの}染井吉野2,000本、^{しらゆき}白雪1,000本、^{みくるまがえし}御車返500本、^{いちよう}一葉500本、^{ありあけ}有明500本、^{ふくろくじゅ}福祿寿500本、^{かんざん}関山500本、^{ふげんぞう}普賢象500本、^{するがだいに}駿河台香100本、^{ぎよいこう}御衣黄100本の10種類 計6,200本に対し、1910年(明治43年)12月、品川の妙華園、河瀬春太郎氏及び船津静作氏の助けをかりて熊谷技師により荒川堤から興津の農事試験場に集められた桜は59種類にもものぼりました。

桜の種類は暁桜、天ノ川、有明、東枝垂、牡丹、長州緋桜、江戸、不断桜、福祿寿、普賢象、祇女、旗桜、日暮、彼岸枝垂、法輪寺、一葉、糸枯、早晚山、上香、麒麟、菊枝垂、彼岸、緋寒桜、九重、小汐山、苔清水、樺桜、関山、豆桜、増山、水上、御車還、御衣黄、紫桜、南殿、奈良桜、大提灯、王昭君、大島桜、大手鞠、大吉野、松月、白妙、柴山、白雪、染井吉野、朱雀、墨染、駿河台香、泰山府君、滝香、虎尾、右近桜、渦桜、^{うすかんざん}薄寒桜、鷺尾、八重曙、吉野枝垂、八重豆桜の

59種類です。採取した穂木は、青酸ガス燻蒸で害虫駆除した後、日陰の地中にうずめて貯蔵しました。



また1910年5月に東野の久保武兵衛氏に農事試験場の古在博士は、1万5千本の台木の注文を行い、農事試験場園芸部の恩田部長と桑名、熊谷、堀技師が東野村を訪れ台木苗づくりにとりかかりました。(写真は熊谷八十三氏、興津100周年記念CDアルバムより)



1910年(明治43年)12月始め、山桜の台木苗は静岡県清水市興津の農事試験場へ送られ、農事試験場近くの南面傾斜地に植えられました。

(写真は1909年(明治42年)の農事試験場園芸部の建物、興津100周年記念CDアルバムより)

それから2ヶ月おいて1911年(明治44年)2月 から日本の名誉をかけた熊谷技師達により興津の農事試験場で台木苗に穂木を接ぎ木し、予定の土地(現在の清水興津中学校と試験場の境の傾斜地、通称「腰かけ山」)に植え込み、施肥、除草など精魂をこめ、苗木一本ごとに竹の支柱を立て保護管理にあたりました。健全な苗を6,000本作るということは農薬の無い時代に非常に難しい仕事でした。6月19日の台風では相当に被害を受けましたが、手当てのかわいがあって、傷も治りました。

10ヶ月後の12月に掘り起こし、青酸ガス燻蒸してまた仮植えをし、そして翌年1912年(明治45年)の2月7日アメリカへ送るために掘り起こされました。苗木は病虫害もなく、丈は1mから1.5mの素晴らしい苗木に成長し、東京市の検査員の確認検査も無事終了しました。

昭和天皇が幼少のころの1912年(明治45年)1月28日、三皇孫殿下(後の昭和天皇・高松宮・秩父宮)が農事試験場を訪れ、恩田技師の案内で発送直前の桜の苗木を見学され、大変感激したとのエピソードが伝わっています。また、前述のシドモア女史も訪れ、丘陵地帯の南側斜面に無数の細い竹で支えられた苗木が階段状に整然と並んでいる光景に感激したとのことでした。

1912年(明治45年)2月8日(木)、苗木6,040本と熊谷技師が朝5時半の汽車で興津を出発し、午前11時横浜に到着、2月9日(金)苗木6,040本は10本ずつ束にされ、10箱に詰められました。

1912年(明治45年)2月14日、横浜港より桜苗木6,040本を積んだ日本郵船「阿波丸」がシアトルに向け出航しました。苗木の半数はワシントンのポトマック河畔植樹用に、そして残りの半数は高峰譲吉博士や日本人の希望で「ハドソン・フルトン祭」におくるためのものでした。

到着後これらの苗木はワシントンへ向け、冷蔵貨車で運ばれました。1ヶ月後の1912年(明治45年)3月26日に桜苗木はワシントンに着きました。農務省検査局が検査したところ病気や害虫がまったく無く驚いたそうです。

アメリカ国立公園局による寄贈された桜の種類は以下のとおりです。

染井吉野 1800本、有明(大きく白い花) 100本、普賢象(淡紅、八重桜) 120本、福祿寿(紅色、八重桜) 50本、御衣黄(淡緑黄色、八重桜) 20本(すべてホワイトハウス敷地に植えられました。)、一葉(淡紅、八重桜) 160本、上香(匂いのある白花、八重桜) 80本、関山(大きな花、紅色、八重桜) 350本、御車返(大きな花淡紅白色) 20本、白雪 130本、駿河台香 50本、滝香(匂いのある白花、八重桜) 140本の 12種 合計 3,020本。

* 11種送付予定でしたが、滝香190本のところ、駿河台香50本が混ざり、12種になったと思われます。(前島康彦氏著「ワシントンの桜」に記述あり)



のHPより)

1912年(明治45年)3月27日に、タフト大統領夫人と米国駐在珍田大使夫人はタイダル・ベイスンの北岸、現在のインエディペンデンス通り南側に最初の2つの桜(染井吉野)を植樹しました。式典の最後に、タフト大統領夫人は「アメリカンビューティ」のバラの花束を珍田大使夫人にプレゼントしました。わずか数人の人々によるセレモニーがワシントンDCの桜祭りの発端でした。(写真は米国駐在珍田大使夫妻、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS



(写真はタフト大統領夫人、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS のHPより)

これらの2本の木は、17番通りの南端にある John Paul Jones 像から数100ヤード西に今日いまなお立っています。木の根元には当時を記念する大きい銅製のプレートがあります。

1913年～20年にかけて、染井吉野はタイダル・ベイソンに植樹され、他の11種類と残りの染井吉野は東ポトマック公園に植樹されました。



(地図はタイダル・ベイソンと東ポトマック公園の桜マップ、アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局 NPS のHP より)



桜再寄贈の大成功により、東京市は関係者に報酬を贈っています。古在由直場長、桑名伊之吉技師、恩田鐵彌技師、熊谷八十三技師、三好學博士、船津静作氏、興津試験場庶務課長波多野庸氏、同場宮ノ原健輔技手、同場村松春太郎雇員、同場谷川利善囑託員に白縮緬が贈られました。

(写真は農事試験場園芸部明治45年卒業生と恩田場長(前列中央)の記念写真、興津100周年記念CDアルバムより)

その後、ワシントンの桜は市民に愛され続け、1935年から毎年桜祭りを開催しています。また、その反対に桜にとって辛い時もありました。豪雨による浸水で枯死、記念館建設による伐採に対して婦人団体の伐採反対デモ、日米開戦により敵国の桜として伐採されるという危機を何度も乗り越えてきました。1912年(明治45年)に植樹された桜の老木はもう200本以下となってしまいました。子孫を含め3,750本が植栽されています。桜は大事に管理されており、生育状態は本家の日本より良好だと言われています。

—ニューヨークに植栽された桜—

興津で誕生した桜は、ワシントンのほかニューヨークにも植栽されました。

1909年(明治42年)の「ハドソン・フルトン祭」(蒸気船の生みの親(ロバート・フルトンがハドソン川での蒸気船テスト運動に成功してから100年、イギリス探検家(ヘンリー・ハドソン)がハドソン川を発見してから300年を記念したお祭り)の一環として、ニューヨーク在留邦人が、ニューヨーク市に2,000本の桜の寄贈をする計画をたて、クレアモント公園に植栽する予定でした。しかし、日本から桜の木を積んだ蒸気船は途中航路で行方不明となり、1909年(明治42年)に間に合いませんでした。

その後、東京市がワシントンに桜を再度寄贈することを聞いたニューヨーク在留邦人日本クラブと高峰博士らが、ワシントン寄贈用の桜とは別にニューヨーク植樹用として3,020本の苗木づくりを興津の農事試験場に依頼しました。

1912年(明治45年)再度ワシントン桜と同時に輸送され、3月にニューヨークに無事到着、4月28日、ニューヨーク市ハドソン河畔のクレアモント公園内にあるグラント將軍墓所前で盛大な歓迎植樹式が行われ、4月29日に植樹されました。

この約2エーカーの土地はのちに「さくらパーク」と呼ばれ、ニューヨーク市がJ・D・ロックフェラー氏から購入し、同氏の寄付金で整備された後、1934年に正式に公開され、市民の憩いの場となりました。(写真はニューヨークのさくらパーク、New York City Department of Parks & Recreation のHPより)



—アメリカから贈られた花 ハナミズキ 興津に原木が現存—

アメリカから桜の御礼とその後の桜の生育の報告のため、1915年(大正4年)4月に柑橘分類学者スィングル博士(農務省)がアメリカ政府代表として来日し、アメリカの国家的、国民的な花木であるハナミズキ(白花種)苗40本と種子数ポンドを東京市に贈りました。

(日本にハナミズキが渡来したのは、この時が最初。)

また2年後の1917年(大正6年)フェアチャイルド博士により、ピンクの苗木13本と種子が贈られました。

当時の記録によると、日比谷公園や植物園、羽根沢苗圃、繁殖用に野方苗圃などに配られ、都内の公園に植栽されましたが、太平洋戦争中「敵国の木」としてその所在が不明になってしまいました。

峰与志彦氏の調査、横浜市港北区 HP に掲載された原木であると断定してよいハナミズキ。

- | | | |
|---------------------------|----|----|
| 1. 東京都立園芸高等学校(世田谷区) | 白花 | 2本 |
| 2. 農水省果樹試験場・興津支場(静岡市清水区) | 白花 | 1本 |
| 3. 東京大学理学部附属(小石川)植物園(文京区) | 白花 | 1本 |

原木ではないかと思われる木

- | | | |
|-------------------|---------|----|
| 1. 新宿御苑(新宿区) | 白花・ピンク花 | 1本 |
| 2. 有栖川公園(港区) | 白花 | 1本 |
| 3. 多磨霊園(府中市) | ピンク花 | 1本 |
| 4. 井の頭自然文化園(武蔵野市) | 白花 | 2本 |
| 5. 浦野家(個人宅・世田谷区) | ピンク花 | 1本 |
| 6. 神代植物公園(調布市) | 白花 | 1本 |

1915年(大正4年)にアメリカから贈られた白花のハナミズキが興津の農事試験場にも5本ゆかりの地として贈られました。5本のうち1本が94年経った今でも現存し、場内のみかん山にみかんと一緒に植えられています。2月には興津宿寒ざくらまつりにあわせて一般公開され、見学することもできます。毎年5月になると白い花を見せています。

農林水産省果樹試験場興津支場発行の「名木案内」によるハナミズキの紹介は次のとおり:



アメリカヤマボウシ

「北アメリカ各州と北東メキシコに自生しており、我国のヤマボウシは同属である。

この樹はワシントンに贈った桜の返礼に1915年(大正4年)5月、米国農務省 Dr. W. T. Swingle(柑橘分類学者)が米国政府使者として来日し、バージニア州の州花であるドッグウッド(*)の苗木40本(30本説有り)と種子数ポンドが東京都に贈られた中の1本である。

これと同時に贈られた兄弟は日比谷公園に5樹あったが、枯死し、現在は孫にあたる樹がある。

また、東京都立園芸高校の庭にも2樹ある。また、贈られた種子は都内の学校に蒔かれてハナミズキの普及に役立った。当场には5樹があったが、庁舎建て替えに伴う移植などで枯死したため、本樹だけになった。

この樹の花は白色であり、紅葉が美しい。」(写真は果樹研究所内のハナミズキ、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所の HP より)

*ハナミズキの英語名 Dog Wood



(写真はアメリカから贈られたハナミズキの原木の花、興津100周年記念CDアルバムより)

—その後の興津試験場について—

(1) 興津試験場に「ワシントンの桜誕生の地」碑が建立

1992年(平成4年)2月11日、果樹試験場興津支場の開場90周年記念式典が開催され、場内に建立された記念碑の除幕式が350名の参加者のもと、盛大に行われました。除幕は、熊谷真太郎氏(熊谷八十三さんの孫)と志賀葉末さん(同、二女)のお二人。碑の題字は千野知長元果樹試験場長によるものです。



(写真は初代恩田場長の銅像の隣にある「ワシントンの桜誕生の地」碑)

(2) 興津試験場内のソメイヨシノ



果樹研究所カンキツ研究興津拠点の講義室の横にあるソメイヨシノは、アメリカに寄贈される為に育成されたソメイヨシノです。

97年を経てなお健在で、今年もきれいに咲きました。

(写真は果樹研究所講義室のソメイヨシノ、果樹研究所カンキツ研究興津拠点より提供)

(3) ワシントン市から熊谷八十三氏に感謝状

1962年(昭和37年)4月17日、ワシントンの桜植樹50周年記念式典が国会内の尾崎記念館で開催されたおり、ワシントン特別市理事会議長ワルター・エヌ・トプリーナ名の感謝状が熊谷八十三氏に贈られました。この感謝状には、当時、アメリカ合衆国日本特命全権大使ライシャワー氏の署名が添えられています。

感謝状

ワシントン市民並びに全アメリカ国民に代わって、ワシントンにおける日本桜植樹50周年記念に当たり、私の心からなる御挨拶を送ります。特にこの贈物の実現に貢献された熊谷八十三氏の業績を称えたいと思います。

尾崎市長及びその協力者の先見の明によって生れた、この成果即ち半世紀前に植えられたこれらのうろわしい木々は、両国民結合の象徴であり、その可憐な美しさは世界各国からワシントンを訪れる幾百万とも知れぬ人々の喜びの源となっております。

この芽出たい機会に、50年前国際関係の先覚者によって遺された基盤を更に強める決意を新たにし、以って両国の友情と善意との不朽の記念碑を我々の時代から後世に伝えたいと存じます。

ワシントン特別市理事会議長

ワルター・エヌ・トプリーナ

アメリカ合衆国大使館

ワシントンの日本桜植樹五十周年の1963年4月17日東京において署名す。

エドウィン・オー・ライシャワー

上記感謝状は、田中彰一著「随筆八十路を越えて」より引用

(4) つくばの八重桜並木



戦後、江戸時代に作られた多くの桜の品種が消え去ろうとした時、森林総合研究所多摩森林科学園に多くの桜の品種が集められました。その時、果樹試験場も江戸時代からの代表的品種を保存し、平塚からつくばに移転する時、その一部を持参し、現在の果樹研究所内に八重桜並木を作りました。

この中の5品種（普賢象・駿河台匂・白妙・関山・日暮）は興津からワシントンに送った桜苗木の余り苗から育成されたものと推定されています。現在、この八重桜並木は、つくば一の八重桜並木となっています。（写真は八重桜の並木道（花き研究所・果樹研究所）、日本農業実践学園のHPより）

—ワシントン桜と兄弟の^{うすかんざくら}薄寒桜—

熊谷技師が荒川堤から集め、アメリカに寄贈するため育成した苗木のうち、残った同年生の兄弟の桜達は農事試験場内に植栽されました。しかし戦時中の食糧増産、庁舎の建替えのために収集していた相当数が伐採されたり、枯死してしまい、薄寒桜1本だけが残りました。



この薄寒桜は育成本数が3本と少なかった為、当時アメリカ行きを選から漏れたものでした。薄寒桜はオオシマザクラとヒザクラの雑種と言われ、その中では色の薄い種類です。3本のうちの1本は上野博物館横に植栽され、あとの1本は行方不明ですが、恐らく枯れてしまったものと思われます。（写真は果樹研究所内の薄寒桜、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所のHPより）



この、農事試験場みかん山に植えられた薄寒桜も、毎年2月に美しい淡い上品な薄いピンクの花色を見せていましたが、ついに96年後の2008年に枯死してしまいました。

所内の薄寒桜)

なお、この木の2代目は同場内のみかん山に4本（1本は20年生、残り3本は不明）と清水区由比町さった峠に14本（約20年生）植栽されています。（写真は、果樹研究所内の薄寒桜）

—薄寒桜を育てる会—



平成12年ごろ、興津の試験場の支援を受け、興津自治会により「薄寒桜を育てる会」が設立されました。「薄寒桜を育てる会」は清水区由比町のさった峠の桜から接木で育てた3代目の薄寒桜1200本を育成し、興津地区内(約500本)や清見潟公園内(約700本)などに植栽し、大事に育てています。

この桜は早咲きのため、河津桜より早く1月下旬に開花し、2月には桜が満開となります。この開花に合わせて清水商工会と地元自治会がお祭りを開催し、今年も2月14日に第13回興津宿寒ざくらまつりが開かれました。(写真は清見潟公園の薄寒桜)

—ワシントンの借景・水道山の桜—



清水興津中学校と試験場との境にある傾斜地・通称「腰かけ山」が日米友好の桜の苗木を育てたところであると言われていています。そこに隣接する山が通称「水道山」です。

(写真は果樹研究所カンキツ研究興津拠点より望む通称「腰かけ山」、果樹研究所カンキツ研究興津拠点より提供)

農林水産省果樹試験場興津支場発行の「名木案内」による水道山の紹介は次のとおり：

借景・水道山の桜

「興津中学校の北側にある通称水道山(清水市水道局中町浄水場)には戦前から桜・染井吉野が植栽されていたが、当時の園芸試験場果樹第二部長(後の興津支場長)田中彰一氏が、1912年(大正元年)にワシントンに送ったのと同じ品種を再度興津の地に植えるため、穂木を東京都農業試験場に依頼して江戸川堤より取り寄せ、興津にて大島桜に接ぎ木して苗木を養成した後、1964年(昭和39年)、当時の興津公民館長で元興津町長・田中秀夫氏が会長を務める興津花の会に植栽を依頼し、設立時の園芸部長から数えて13代目の興津支場長・広瀬和榮が研究員時代に氏の指導の元に水道山に植えられた。同時に試験場内、静岡市にも植えられている。水道山の桜は染井吉野の満開に合わせて一般公開されているが、八重桜等、一か月以上にわたり楽しめる。

植えられた品種はワシントンに送った11品種(染井吉野、白雪、有明、福祿寿、一葉、関山、普賢象、上香、滝香、御車還)と白花支那実桜、寒桜であったが、11品種の中の後4品種が枯れたため、1993年(平成5年)2月19日に御衣黄と、新たに駿河台句を第14代目興津支場長・梶浦一郎氏が日本さくらの会より取り寄せて捕植した。」と記載されています。



現在水道山は静岡市企業局中町浄水場が管理し、桜の開花にあわせ3月または4月の1日のみ一般公開しています。(写真は通称「水道山」の中町浄水場の桜、静岡市 HP より)

水道山ではワシントンに贈った同じ品種の桜を見ることができます。

—静岡市の花・ハナミズキ—

平成15年4月1日、旧静岡市と旧清水市が合併し、静岡市が誕生しました。静岡市の木としてハナミズキが選ばれました。(静岡市の花はタチアオイ)ハナミズキの花言葉は「返礼」で、興津の農事試験場で栽培されワシントンに東京市が贈った桜の返礼としてアメリカから渡来したことに由来しています。

静岡市内の公園や街路樹として各所に植えられ、5月には可愛い花を、秋には紅葉で市民の目を楽しませています。(写真はハナミズキ、ウィキペディアより)



一日米友好の桜100周年 桜のふるさと・興津

3年後の2012年に興津で誕生した桜がワシントンに寄贈されて100周年を迎えます。この100周年に先立ち、2009年5月、全米さくらの女王が静岡を訪問し、日米友好の桜誕生の地・興津を訪問します。

日米開戦という悲劇を乗り越え、100年もの長きにわたりアメリカで愛され育まれてきた日本の桜とそのソフトパワー、国家の威信をかけて97年前の興津で進められた苗木作りプロジェクト、アメリカ行きから漏れたものの96年間も興津で生き続けた薄寒桜、アメリカから94年前返礼として贈られて今も現存しているハナミズキの原木、歴史の片隅に埋もれていた当時の関係者の思いと努力とともに再び脚光を浴びようとしています。

興津の農事試験場で進められたこのプロジェクトには、前述の技師たちの他、地元の植木屋さんや農事試験場の研修生、農事試験場の事務所や食堂などに勤めていた興津の人など沢山の市民が関わってきました。地元興津ではこれらの歴史を誇りに思い、残った薄寒桜を育てていくまちづくりを行っています。

静岡市の木に選定されたハナミズキ、この花言葉である「返礼」に込められた輝ける歴史を市民のみなさんに知っていただけたらと思います。

参考:

アメリカ合衆国内務省アメリカ国立公園局HP「Cherry Blossom History」、
<http://www.nps.gov/nama/planyourvisit/cherry-blossom-history.htm>

全米州協議会ブログ「About 2009 Cherry Blossom Princess Program」、
http://ncss.typepad.com/my_weblog/about-2009-cherry-blossom-princess-program/

伊丹市在住の荒西完治氏HP「米国ワシントンD. C. の桜物語」(1)

http://aranishi.hobby-web.net/3web_ara/sakura.htm

同上「米国ワシントンD. C. の桜物語」(2)

http://aranishi.hobby-web.net/3web_ara/sakura_2.htm

エリザ・R・シドモア著 外崎克久訳 「日本の桜—歓喜と詩のある季節」

(2000) 財団法人日本さくらの会

恩地薫著「シドモア女史と日本の桜—日米親善の架け橋となったシドモア女史」

(2000) 財団法人日本さくらの会

青木恵一郎著「特集桜ワシントンへ送った桜—ポトマック河畔にいまも咲乱れる日本桜の育成者熊谷八十三翁のこと」

田中彰一著「随筆八十路を越えて」(1984)北泉社

在NY日本国総領事館HP「さくら・パーク」

<http://www.ny.us.emb-japan.go.jp/150th/html/nyepi2c.htm>

農林水産省 果樹試験場興津支場 名木案内 (1993)

農林水産省 果樹試験場興津支場内 桜会

峰 与志彦著 桜のお返しの花水木行方不明 アメリカからきたハナミズキを知道吗せんか？

—桜と花水木の交流の物語— (1995) (財)尾崎行雄記念財団

横浜市港北区 HP <http://www.city.yokohama.jp/me/kohoku/sinkou/hanamizu.html>

外崎克久著 「ポトマックの桜物語—太平洋の虹とならん」(1998) 鳥瀬社

外崎克久著「エリザ・シドモアの愛した日本—ポトマックの桜秘史」(1996) トツプロ

前島康彦著「ワシントンの桜」(1968) 東京庭園協会

青木清著「花交流、ワシントン DC の兄弟桜 薄寒桜(ウスカンザクラ)」

静岡市役所 公園計画課 緑化担当

電話 054-221-1249